Newsletter

第一三共ヘルスケア株式会社

2025年３月18日（火）

人生100年時代　働く人を対象とした「健康とセルフケアの実態調査 2025」

今年の新社会人は、「仕事」も「私生活」も
ワークライフバランス重視の“二刀流”

だから起きやすい?! 新社会人は春の「グラグラワーク現象」に要注意！

“コツコツ型”新社会人がグラっときたら、セルフケアの「さ・し・す・せ・そ」で予防！

第一三共ヘルスケア株式会社（本社：東京都中央区）は、自分自身で健康を守り対処する「セルフケア」という考え方が、健康寿命世界一の長寿国である日本において重要なテーマになることを見据え、毎年、働く人の「健康とセルフケアの実態調査」を行っています。今回は、現役ビジネスパーソンを対象としたセルフケアの定点調査に加え、4月から就職予定の学生（以下、新社会人）を対象にセルフケアに対する意識や新社会人生活への意欲や不安を調査しました。

調査の結果から、ビジネスパーソンはセルフケアに関しての認知率、実践率、費用はいずれも前年より上昇し、ワークライフバランスがとれているビジネスパーソンは仕事も趣味も充実していることが分かりました。また、新社会人には次のような“二刀流”傾向が見えてきました。

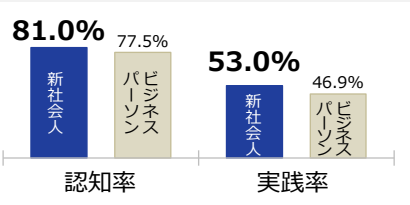
今春の新社会人はワークライフバランス重視の“二刀流”でセルフケアにも積極的

就職先の重視点 第3位が ワークライフバランス

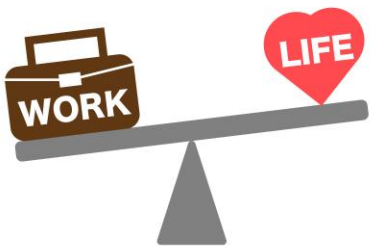
1位	給与	52.0%
2位	勤務地	47.0%
3位	**ワークライフバランス**	**45.0%**
4位	仕事内容・仕事へのやりがい	43.0%
5位	働き方や福利厚生	41.0%

新社会人（n=100）（複数回答）

自分を大事にする新社会人 半数以上がセルフケアを実践中



新社会人（n=100）　ビジネスパーソン（n=1,000）



社会人生活に対する今の不安 第1位が ワークライフバランス

1位	**ワークライフバランス**	**56.0%**
2位	仕事内容	47.0%
同率2位	職場の人間関係	47.0%
4位	自分の健康管理	37.0%
5位	タイムマネジメント	31.0%

新社会人（n=100）（複数回答）

初任給でセルフケアしたい！ 4人に1人がセルフケア投資も

1位	自分へのご褒美	47.0%
2位	親や家族のために使う	46.0%
3位	これまでに欲しかったものの購入	26.0%
4位	**セルフケア**	**25.0%**
5位	友人とのコミュニケーションに使う	20.0%

新社会人（n=100）（複数回答）

「健康とセルフケアの実態調査 2025」調査概要

■実施時期：2025年2月6日（木）～9日（日）■調査対象：ビジネスパーソン＝全国の20～60代の働く男女1,000人　新社会人＝2025年4月に就職予定の学生（大学生・大学院生、短大生、専門学校生、高校生）男女100人　■調査手法：インターネット調査　■調査委託先：楽天インサイト株式会社

※グラフの構成比（%）は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

産業医・鄭理香先生に聞く、新社会人の「グラグラワーク現象」と対処法

新社会人が陥りやすい「グラグラワーク現象」とは？　乗り切るカギとなるセルフケアの「さ・し・す・せ・そ」をご提案

1. 新社会人のセルフケア実態

この春、新社会人となる学生100人に、「セルフケア」（自分自身で健康を守り対処すること）に関する調査を行いました。あわせて、20～60代の現役ビジネスパーソン男女1,000人にも同様の質問を行っています。

自分自身で健康を守り対処するセルフケア、新社会人の81.0%が認知し、53.0%が実践。ビジネスパーソンに比べ、新社会人はセルフケアの認知率も実践率も高い。

新社会人にセルフケアという言葉の認知を聞くと、81.0%が「知っている」と答え、現役ビジネスパーソンの認知率77.5%と比べ3.5ポイント高くなっています［図1］。

また、「セルフケアとは、自分自身で健康を守り対処すること」と提示した上で、自身のセルフケアができているかを聞くと、新社会人の53.0%が「できている」と答え、ビジネスパーソンの実践率46.9%と比べ、6.1ポイント高くなっています。なお、新社会人がセルフケアにかけている1カ月の費用は平均で3,126円でした［図2］。

［図1］セルフケア認知率

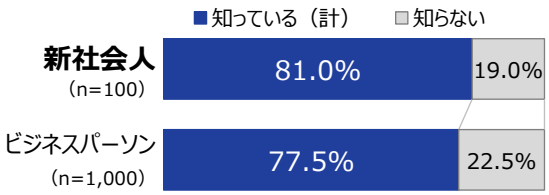
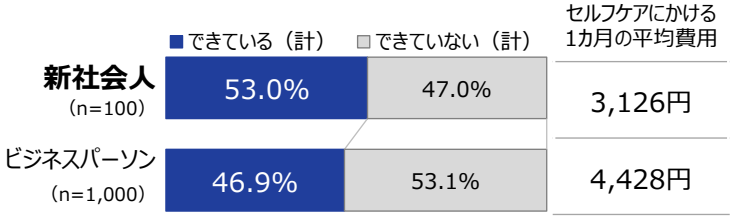


図1の■知っている（計）は
「意味・内容まで知っている」「言葉だけは知っている、聞いたことがある」の合計値

［図2］セルフケア実践率と1カ月の平均費用



□2の■できている（計）は「できている」「どちらかというとできている」の合計値
■できていない（計）は「どちらかというとできていない」「できていない」の合計値

新社会人の約8割が「セルフケアの重要性が増す」「セルフケアのために市販薬は役立つ」と考え、「市販薬の知識をもっと増やしたい」と希望。社会人になったら「今以上にセルフケアに取り組みたい」。

セルフケアに対する意識を聞くと、新社会人の76.0%が「今後日本ではセルフケアの重要性が増すと思う」、78.0%が「セルフケアのために市販薬は役立つと思う」と答え、73.0%が「セルフケアのため、市販薬についてもっと知識を増やしていきたい」と答えています。新社会人の多くがセルフケアの重要性や市販薬がセルフケアに役立つことを認識し、市販薬の知識をもっと身に付けたいと感じているようです［図3］。

さらに、社会人になってセルフケアをどうしたいかについては、79.0%が「今以上にセルフケアに取り組みたい」と答え、4月からの社会人生活でも今まで以上に積極的にセルフケアに取り組むことを望んでいます［図4］。

［図3］新社会人のセルフケアに対する考え方

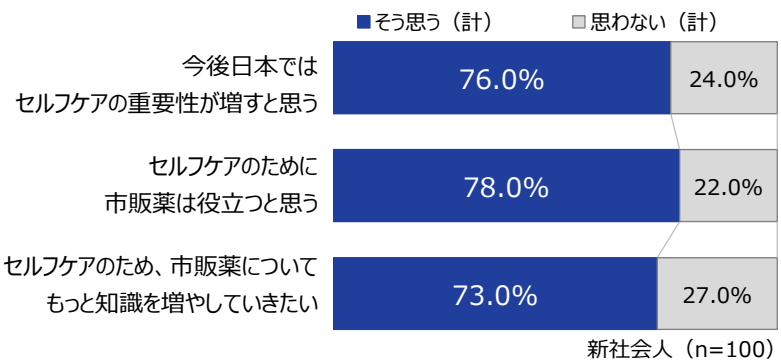


図3の■そう思う（計）は「当てはまる」「やや当てはまる」の合計値
□思わない（計）は「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計値

［図4］社会人になって
今以上にセルフケアに取り組みたいか？

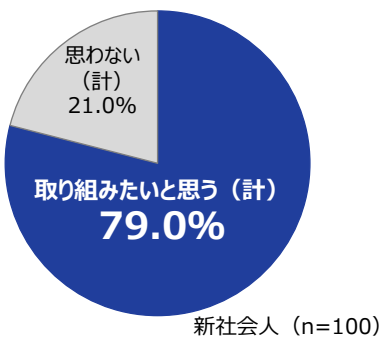


図4の■取り組みたいと思う（計）は「そう思う」「ややそう思う」の合計値
□思わない（計）は「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計値

2. 4月以降の新社会人の仕事・生活予報

就職先選びは仕事内容よりワークライフバランスを重視、ライフとワークの“二刀流”に。

新社会人に仕事観について聞きました。まず、就職先を選ぶ際に重視したことを聞くと、「給与」（52.0%）、「勤務地」（47.0%）に次いで、「ワークライフバランス」（45.0%）と回答した人が3番目に多くなっています［図5］。また、4月からの社会人生活で不安なことを聞くと、ワークライフバランスが保てるかどうか、自分のプライベート時間が減ることなどの「ワークライフバランス」（56.0%）を挙げた人が最も多くなっています［図6］。

一方、就職先を選ぶ際の重視点として、新社会人の43.0%が「仕事内容・仕事へのやりがい」を重視し［図5］、47.0%が社会人生活で「仕事内容」に不安を感じています［図6］。

令和の新社会人は、就職先を選ぶときも働き始めるときからも、ワークライフバランスを重視していますが、同時に、仕事を通して成長できるか、チャレンジできるかといった仕事へのやりがいも重視する傾向も見られます。生活を大切にしながらも、仕事にも充実感を求める“二刀流”の傾向が見て取れました。

［図5］新社会人が就職先を選ぶ際の重視点TOP5（複数回答）

1位	給与	52.0%
2位	勤務地	47.0%
3位	**ワークライフバランス**	45.0%
4位	**仕事内容・仕事へのやりがい**	43.0%
5位	働き方や福利厚生	41.0%

新社会人（n=100）

［図6］新社会人が4月からの社会人生活で不安に感じることTOP5（複数回答）

1位	**ワークライフバランス** ワークライフバランスが保てるかどうか、自分のプライベート時間が減ることなど	56.0%
2位	**仕事内容** 仕事をきちんとこなせるか、期待通りの成果がだせるかなど	47.0%
同率2位	職場の人間関係 上司や先輩とうまくやっていけるか、環境になじめるかなど	47.0%
4位	自分の健康管理 からだ、こころともに健康管理ができるかどうかなど	37.0%
5位	タイムマネジメント 効率的にできるかどうか、時間に追われた生活になるのではないかなど	31.0%

新社会人（n=100）

新社会人の約8割が自社に“ウェルビーイング企業”を熱望。現役ビジネスパーソンより約20ptも高い。“ウェルビーイング企業”として期待するのは、「ワークライフバランス推進」「働きやすい職場の雰囲気づくり」。

従業員の心身の健康や幸福、生活の質を重視し、働きやすい環境を提供する企業のことを“ウェルビーイング企業”と呼びます。自分の会社に“ウェルビーイング企業”であることを求めるかと聞くと、新社会人の81.0%が「求めている」と答え、現役ビジネスパーソン（62.2%）より18.8ポイントも高くなっています［図7］。就職先のウェルビーイング施策として期待することを聞くと、「ワークライフバランスの推進」（55.0%）、「働きやすい職場の雰囲気づくり」（50.0%）を期待する声が大きくなっています［図8］。

［図7］自社に“ウェルビーイング企業”であることを求めるか

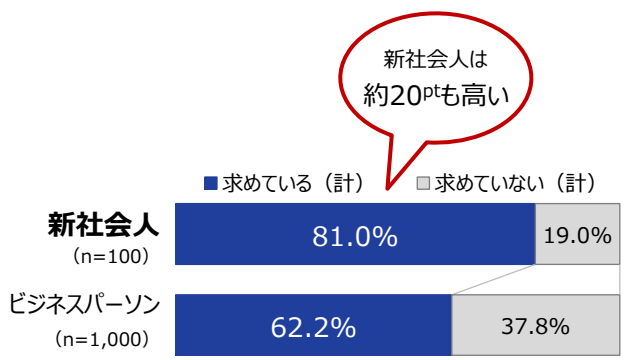


図7の■求めている（計）は「求めている」「やや求めている」の合計値
□求めてない（計）は「ほとんど求めていない」「求めていない」の合計値

［図8］新社会人がウェルビーイング施策として就職先に期待することTOP5（複数回答）

1位	**ワークライフバランスの推進**	55.0%
2位	働きやすい職場の雰囲気づくり	50.0%
3位	多様な働き方の推奨	36.0%
4位	業務効率向上の推進	34.0%
5位	スキルアップやキャリアアップの推奨	32.0%

新社会人（n=100）

新社会人の理想の働き方は「コツコツ」「さくさく」がツートップに！ 堅実、効率よく働きたい。

4月からの希望する働き方について、六つの擬態語の中から一つだけ選んでもらうと、「コツコツ」（40.0%）が最も多く、次いで「さくさく」（21.0%）となりました。

「ばりばり」（10.0%）や「がつがつ」（5.0%）は少なく、かといって「ゆるゆる」（7.0%）でもない、真面目にコツコツと堅実に努力を続ける、あるいは、仕事をさくさくと効率的に進める働き方をしたいと思う人が多いようです［図9］。

［図9］新社会人が考える自分の理想の働き方

1位	**コツコツ**	**40.0%**
2位	**さくさく**	**21.0%**
3位	そこそこ	17.0%
4位	ばりばり	10.0%
5位	ゆるゆる	7.0%
6位	がつがつ	5.0%

新社会人（n=100）

新社会人の4人に1人が初任給を「セルフケアに使いたい」と回答。

新社会人に初任給を生活費以外でどんなことに使いたいかと聞くと、「自分へのご褒美」（47.0%）や「親への感謝を示すなど親や家族のために使う」（46.0%）といった意見が多くなっていますが、4人に1人は、自分自身の健康を守り対処する「セルフケア」（25.0%）に使いたいと答えています［図10］。

社会人になってからも、「今以上にセルフケアに取り組みたい」と考える今春の新社会人、初任給でセルフケア投資をする人も少なくないようです。

［図10］新社会人の初任給の使い道（複数回答）

自分へのご褒美	47.0%
親への感謝を示すなど親や家族のために使う	46.0%
これまでに欲しかったものの購入	26.0%
セルフケア （自分自身の健康を守り、対処すること）	**25.0%**
友人とのコミュニケーションに使う	20.0%
スキルアップ	19.0%

新社会人（n=100）

3. ビジネスパーソンのセルフケア実態

ここからは20～60代の現役ビジネスパーソン男女1,000人を対象とした調査結果です。これまでの結果と比較してみました。

ビジネスパーソンのセルフケア認知率は77.5%とさらに浸透。
セルフケアの対象範囲として「からだ」を含めると回答したビジネスパーソンが約8割に。

セルフケアという言葉について聞くと、ビジネスパーソンの77.5%が「知っている」と答えました。2024年の認知率（75.8%）から微増となり、日本のビジネスパーソンのおよそ8割がセルフケアという言葉を認知しています［図11］。

また、セルフケアの対象となる範囲を聞くと、「からだ」が81.1%、「こころ」が86.8%となり、「こころ」と回答した人の方が多くなっています。しかし経年で変化を見ると、「こころ」と答えた人は横ばいですが、「からだ」と答えた人は増加しています［図12］。

［図11］ビジネスパーソンのセルフケア認知率

各年ともビジネスパーソン（n=1,000）

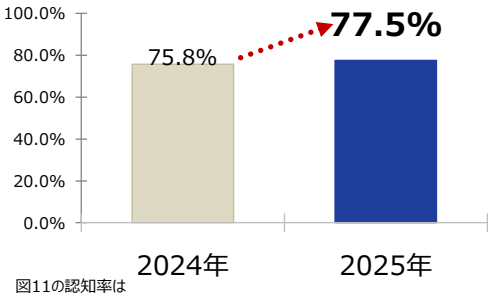
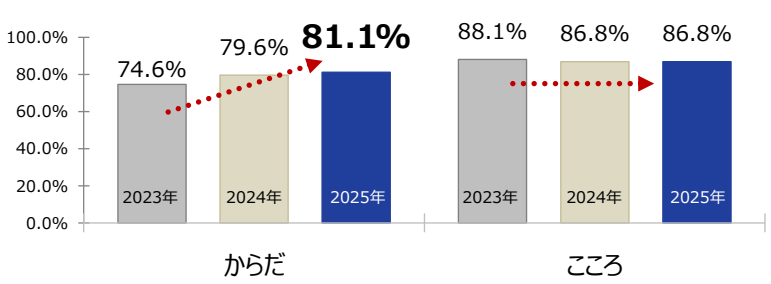


図11の認知率は
「意味・内容まで知っている」「言葉だけは知っている、聞いたことがある」の合計値

［図12］セルフケアの対象範囲（複数回答）

各年ともビジネスパーソン（n=1,000）



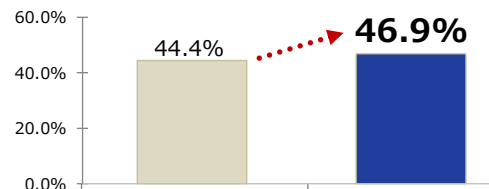
ビジネスパーソンのセルフケア実践率は46.9%、セルフケアにかける費用は月額平均4,428円。
実践率もかける費用も増加傾向に。

「セルフケアとは、自分自身で健康を守り対処すること」と提示した上で、自身のセルフケアがどの程度できているかを聞きました。すると、ビジネスパーソンの46.9%が「セルフケアができている」と答え、2024年（44.4%）から2.5ポイント増えています。年代別に見ると、20代と60代は55.0%と、全体平均より8.1ポイント高くなっています［図13］。

また、セルフケアにかける1カ月の費用を聞くと平均で4,428円となり、2024年（4,173円）と比べ255円増えています。年代別で見ると、60代が5,732円と最も高く、次いで20代が4,488円となっています。60代は昨年に比べ1,392円も増えています［図14］。

［図13］ビジネスパーソンのセルフケア実践率

各年ともビジネスパーソン（n=1,000）

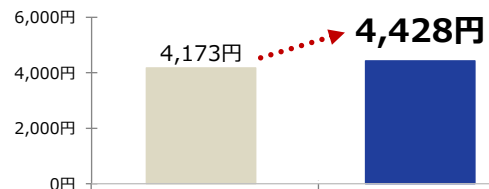


	2024年	2025年
全体	44.4%	46.9%
20代	49.5%	**55.0%**
30代	44.0%	46.3%
40代	39.5%	40.8%
50代	41.2%	41.0%
60代	51.1%	**55.0%**

図13の実践率は「できている」「どちらかというとできている」の合計値

［図14］ビジネスパーソンがセルフケアにかける1カ月の費用

各年ともビジネスパーソン（n=1,000）



	2024年	2025年
全体	4,173円	4,428円
20代	4,765円	**4,488円**
30代	3,993円	3,933円
40代	4,037円	4,184円
50代	3,868円	4,195円
60代	4,340円	**5,732円**

■2025年 全体（n=1,000） 20代（n=200） 30代（n=201） 40代（n=211） 50代（n=239） 60代（n=149）
□2024年 全体（n=1,000） 20代（n=200） 30代（n=200） 40代（n=220） 50代（n=245） 60代（n=135）

ビジネスパーソンがセルフケアを意識して行うことTOP3は「睡眠」「朝食」「3食きちんと」。

ビジネスパーソンにセルフケアを意識して行っていることを聞くと、「十分な睡眠をとる」（40.8%）、「朝食をきちんと食べる」（40.1%）、「1日3食、きちんと食べる」（38.6%）、「野菜を多く摂取する」（37.0%）が上位となり、 新社会人もほぼ同様の傾向が見られました［図15］。

［図15］セルフケアを意識して行っていることTOP10（複数回答）

●ビジネスパーソン

1位	**十分な睡眠をとる**	40.8%
2位	**朝食をきちんと食べる**	40.1%
3位	**1日3食、きちんと食べる**	38.6%
4位	**野菜を多く摂取する**	37.0%
5位	手洗い・うがいをこまめにする	32.9%
6位	できるだけ歩くようにする	32.2%
7位	定期的に健康診断を受ける	30.0%
8位	栄養バランスのよい食事を摂る	29.0%
9位	入浴時に湯船につかる	27.9%
10位	規則正しい生活をする	26.2%

ビジネスパーソン（n=1,000）

●新社会人

1位	**十分な睡眠をとる**	48.0%
2位	**野菜を多く摂取する**	32.0%
3位	**1日3食、きちんと食べる**	29.0%
4位	**朝食をきちんと食べる**	28.0%
5位	栄養バランスのよい食事を摂る	27.0%
6位	筋トレ・ストレッチなど体を動かす	25.0%
7位	手洗い・うがいをこまめにする	23.0%
8位	体によい成分が入った食品／食材を積極的に選ぶ	22.0%
8位	ストレスをためない／ストレス発散をする	22.0%
10位	できるだけ歩くようにする	21.0%

新社会人（n=100）

コラム

ワークライフバランスがとれているビジネスパーソンは仕事も趣味も充実、セルフケア実践度も高い。

今春の新社会人はワークライフバランスを重視する傾向が見られましたが、現役ビジネスパーソンの実態はどうなのか、探ってみました。

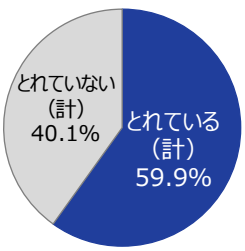
ビジネスパーソンに現在のワークライフバランスを聞くと、ワークライフバランスが「とれている」59.9%、「とれていない」40.1%でした（①）。

このワークライフバランス別に仕事のやりがいや趣味について聞くと、どちらもワークライフバランスがとれていると答えた人の方がスコアが高くなっています。ワークライフバランスがとれている人の方が、仕事にやりがいを感じ、趣味も楽しめているようです（②）。

また、セルフケアについてもワークライフバランスがとれている人は実践率が61.1%と高く、ワークライフバランスがとれていない人（25.7%）の2.4倍も高くなっています（③）。

①現在のワークライフバランス

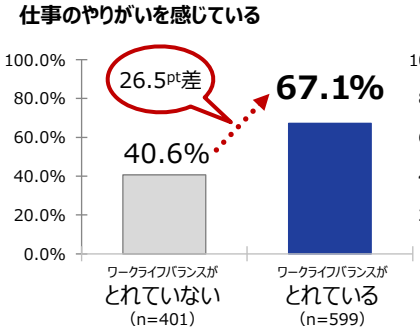
ビジネスパーソン（n=1,000）



ワークライフバランスがとれた生活ができているか？という問いに対し
■とれている（計）は「当てはまる」「やや当てはまる」の合計値
□とれていない（計）は「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計値

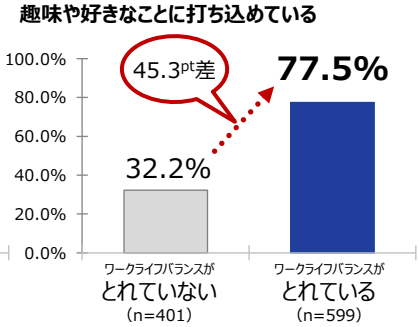
②ワークライフバランスと充実感

仕事のやりがいを感じている



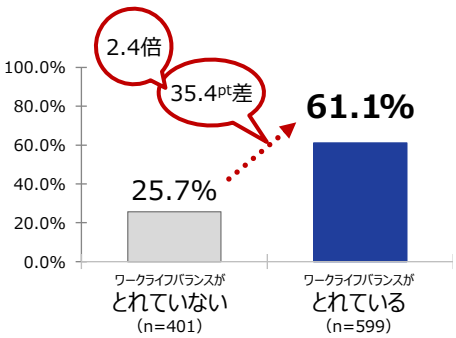
仕事にやりがいを感じているか？という問いに対し、
「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた人の合計値

趣味や好きなことに打ち込めている



趣味や好きなことに打ち込めているか？という問いに対し、
「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた人の合計値

③ワークライフバランスとセルフケア実践率



セルフケアがどの程度できているか？という問いに対し、
「できている」「どちらかというとできている」と答えた人の合計値

産業医・鄭理香先生に聞く、新社会人の「グラグラワーク現象」と対処法

■ ワークライフバランスとは、仕事と生活の調和で相乗効果をもたらす働き方。

今回の調査結果から、今春の新社会人はワークライフバランスをとても重視していることが分かりました。ワークライフバランスとは、**「仕事と生活の調和」**という意味で、ご自身が望むバランスで**両者を充実させながら調和をとることで相乗効果**が期待できます。

■ 新社会人を襲う4月の「グラグラワーク現象」とは？　慣れない環境でバランスを崩してグラグラに。

新生活が始まる4月、新社会人にとってはさまざまな環境が大きく変わる時期です。学生時代には受動的で許されていたことも、社会人としてのルールに沿った上で能動的な時間の使い方が求められます。さらに、新しい仕事や幅広い年齢層にまたがる新しい人間関係など、それまでに経験したことがない大きな変化に直面します。その変化に対し、新社会人の多くは頑張って乗り切ろうと努力する。今の自分がどうなっているのか、仕事と生活のバランスがとれているのかも分からないまま、試行錯誤しながらとにかくがむしゃらに頑張り続けてしまう。**慣れない環境の中で仕事と生活のバランスがうまくつかめず、心身共に不安定でグラグラしてしまう「グラグラワーク現象」に陥りやすい時期**です。

■ 新社会人必携！「グラグラワーク現象」を回避するための、セルフケアの「さ・し・す・せ・そ」。

適応しようと過剰に頑張り続ける状態を医学的には“過剰適応”と呼びますが、グラグラのまま“過剰適応”を続けると、ゴールデンウィーク明けにいわゆる「五月病」に陥ってしまう場合もあります。そんなことにならないよう、**この時期に心がけたいことがセルフケア**。頑張り過ぎな「グラグラワーク現象」への対策として、**セルフケアの「さ・し・す・せ・そ」**をオススメします。何か特別なことをするのではなく、毎日の生活の中で、プチ気晴らしを少しずつ意識して続けることがポイントです。

さ　さわやかな朝日を

朝日は体内時計をリセットし快適な睡眠に導きます。朝日をさわやかに浴びながらストレッチやヨガもオススメです！

し　趣味を大切に

趣味や気晴らしの時間を大切にしましょう。特に、日々の運動習慣は心身の健康増進に役立ちます！

す　睡眠は十分に

日々のストレスは適切な睡眠でも回復効果があります。逆に「不眠」は万病のもと。睡眠は十分に確保し、規則正しい日々を！

せ　セルフモニターを

セルフモニターを意識して行いましょう。日々の健康管理では、いち早くご自身の変化に気付きいち早く手を打つことが大切です。

そ　相談上手に

職場で困ることは周囲に相談。新しい人間関係に疲れたら仲間や旧友との交流で気持ちもリフレッシュ！ため込まず吐き出す習慣を身に付けましょう。

■ 新社会人を迎える先輩社会人もセルフケアマインドで！ その心配りが“ウェルビーイング企業”へ。

今春の新社会人はセルフケアマインドが高いという調査結果も出ていますが、彼らは学生時代にコロナ禍を経験しているので、自分で自分をケアしたり、大切にすることが身に付いているのかもしれません。それは現役社会人の方も同様で、効率的に働いて無駄な残業をしないとか、ちゃんと休むとか、自分で自分を大切にする意識が高まり、実践されているように感じます。

そんな先輩社員の方たちが新社会人を迎えるに当たり、気を付けていただきたいことは、まずは**話しやすい雰囲気をつくる**こと。仕事中になりがちなしかめっ面をやめて穏やかな表情にするだけでも、新社会人は仕事中に先輩に話しかけて大丈夫なんだとホッとできます。その安心感が新社会人の緊張感をほぐし、自分をいたわるセルフケアへとつながるのです。

第一三共グループでは「ワークライフサイクル」、つまり、バランスを保った生活を循環させる・維持させることが重要と考え、取り組みを行っていますが、今、生き生きと働きやすい“ウェルビーイング企業”が求められています。そんな職場になるためには、**上司も部下も一人一人がセルフケアできる環境づくりが大切**です。新社会人も現役ビジネスパーソンの皆さんも、職場全体がセルフケアをしていただき、誰もが生き生きと働きやすい・相談しやすい職場となることが、“ウェルビーイング企業”への第一歩につながります。

第一三共ヘルスケア産業医　鄭 理香（チョン・リヒャン）先生

産業医　精神保健指定医　日本精神神経学会専門医　日本児童青年精神医学会認定医
株式会社Ds'sメンタルヘルス・ラボ　代表取締役社長
東京女子医科大学病院、東京都立梅ヶ丘病院、東京都立松沢病院などを経て、東京大学職場のメンタルヘルス専門コース（TOMH）を修了し、現職。臨床診療を行うとともに、産業医・顧問医・研修講師として、さまざまな職場（企業や教育機関）のメンタルヘルス対策に従事。

セルフケアに役立つ第一三共ヘルスケアの取り組み

① 情報提供サイト「くすりと健康の情報局」について

第一三共ヘルスケアでは、長年製薬事業に携わってきた経験と知識を生かし、「くすりと健康の情報局」を運営しています。気になる症状があればすぐスマートフォンで検索する時代に合わせ、身近な症状の原因・予防・対策や市販薬の役割などを紹介しています。症状が起こったときだけではなく、日頃から症状の特徴や薬に関する知識を深めるコンテンツをご用意し、情報を正確かつ分かりやすく伝え、セルフケア実践の一助となるサイトを目指しています。

くすりと健康の情報局
by 第一三共ヘルスケア

https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/health/

②セルフケア情報メディア「健康美塾」について

「健康美塾」は季節やトレンド、ライフステージごとで気になる症状の情報を毎月配信しているセルフケア情報メディアです。

スキンケア・風邪の対処といった日常生活におけるセルフケアや、生理痛・更年期をはじめとした女性特有の健康課題などについて、医師や薬剤師、美容家による専門的な情報と実践的なスキルや解決法などを紹介しています。

忙しく過ごしていると後回しになりがちな自分自身の「からだ」について、少し立ち止まり向き合っていくために、共に考え、道しるべとなる場所として、楽しさや学び、新たな発見とともにセルフケア情報をお届けしています。

健康美塾®
by 第一三共ヘルスケア

URL：www.daiichisankyo-hc.co.jp/kenko-bijuku/

③YouTubeチャンネル「ねこいちさん ～楽しく健康セルフケア～」について

「ねこいちさん ～楽しく健康セルフケア～」は、「楽しみながらセルフケアを意識し、健康を守る」というコンセプトのもと、200本以上の役立つ動画を公開しているYouTubeチャンネルです。のどの痛みや口内炎といった疾患情報、ステロイド外用剤の正しい使い方、熱中症の応急処置など、生活する上で知っておくと便利な情報を“おしゃべりセルフケア猫”の「ねこいちさん」がテンポよく動画で伝えています。

URL：https://www.youtube.com/@neko_ichi_san

■ 第一三共ヘルスケアについて

第一三共ヘルスケアは、第一三共グループ*の企業理念にある「多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する」という考えのもと、生活者自ら選択し、購入できるOTC医薬品の事業を展開しています。

現在、OTC医薬品にとどまらず、機能性スキンケア・オーラルケア・食品へと事業領域を拡張し、コーポレートスローガン「Fit for You　健やかなライフスタイルをつくるパートナーへ」の実現に向けて取り組んでいます。

こうした事業を通じて、自分自身で健康を守り対処する「セルフケア」を推進し、誰もがより健康で美しくあり続けることのできる社会の実現に貢献します。

＊　第一三共グループは、イノベーティブ医薬品（新薬）・ワクチン・OTC医薬品の事業を展開しています。